あけましておめでとうございます

旧年中はご多分に漏れず、ほとんどどこへも出かけず人と会わずの一年となりました。まだ情勢が悪化する前の 3 月上旬、あとから思えばギリギリのタイミングでドイツ・ハンブルクへ 10 日間ほど調査に行き、旧知の先生とも会うことができましたが帰路の飛行機はすでにガラ空き状態でした。春からはほぼ大学宿舎の部屋と埼玉の自宅と大学研究室を車で行き来するのみの生活。『日本教育行政学会年報』に「地方教育行政における『正義』について考える」と題する拙稿を載せていただきましたが、全体的には冬眠状態になってしまったなと反省しつつの年初となっています。いくつかの非常勤先を含めてオンデマンド型の講義教材を作る仕事とライブ授業の空気には慣れてきて、その面ではスキルアップがあったと言えなくもありません。インタビューを中心にした日本の「中途入職教員」研究も半年ほど休止状態でしたが Zoom を使ったインタビューが軌道に乗りそうで、巻き直しを図っています。

なお私事ですが、昨夏、初孫が生まれ名実ともに爺さんになりました。自分の子については特に感じなかった疑問、「この子はどんな学校制度で学び育っていくんだろう？」ということがとても気になります。これまでの世代と同じとは到底思えない、そう切実に感じます。

先行き不透明ながら、昨年よりは良くなるに違いありません。皆様におかれましてもくれぐれもご自愛の上、どうぞ本年もよろしくお願いいたします。

前原健二（東京学芸大学）　maehara@u-gakugei.ac.jp